

## 「福岡市新世代環境都市ビジョン（仮称）」の市民意見募集の結果について

### 1. 実施の趣旨

「福岡市新世代環境都市ビジョン（仮称）」の策定にあたり、広く市民の意見を反映させるため、素案の内容を公表し、市民意見の募集を行いました。

### 2. 実施方法

#### (1) 期間

平成25年1月15日(火)～平成25年2月15日(金)

#### (2) 閲覧・配布場所

情報公開室、情報プラザ、各区広報担当課、各出張所

#### (3) ウェブ掲載場所

福岡市ホームページ

#### (4) 意見提出方法

窓口提出、郵送、ファックス、電子メール

### 3. 意見提出状況と概要

1) 意見提出者数 11人+2団体

2) 意見の件数 55件

#### 3) 意見の概要

①将来予測について	1件
②将来に向けた社会的要請について	7件
③福岡市の強み・弱みについて	7件
④将来像～2050年の福岡市～について	14件
⑤将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野について	16件
⑥2050年の将来像実現に向けた、ロードマップについて	1件
⑥その他	9件

### 4. 意見への対応

①意見を踏まえ修正 20件

②原案どおり 35件

内訳	・対応しないもの（「原案どおり」とだけ記載）	19件
	・同様の趣旨について記載済みのもの	8件
	・個別の施策の中で検討するもの	8件

※意見、意見への対応の詳細及び修正の反映状況については別添のとおり。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
1	第1章 将来予測	【3頁】将来人口 2050年に福岡市の人口が157万人となり、北九州市や福岡県内は かなり減少する予測となっています。 福岡市の未来の在り方を考えるとき、福岡市の人口がどうなってい るかも重要ですが、福岡市の県や九州における位置づけを考えたとき は「福岡都市圏」の人口がどうなっているかがさらに重要と思われる ので、そのような情報も入れておいてはどうでしょうか。つまり、ビ ジョンには少し「福岡都市圏」という概念を滲ませるべきではないかと 思います。	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、第1章 1-1「2050年、世界人口は、91.5億人、日本は9千5百万人、 福岡市は157万人」の本文を以下のとおり修正します。 【3頁-「2050年、世界人口は～」の16行目】 (旧) 2030年の福岡市の人口は14%増加すると予測されているものの ↓ (新) 2030年の福岡市の人口は14%増加し、福岡都市圏全体でも12%増加すると予測されて いるものの
2	第2章 将来に向けた社 会的要請	【12頁】循環型社会の形成を目指した“地域循環圏”の構築へ 九州地域を地域循環圏として連携を深めていくことに賛成ですが、 このビジョン後半には、あまり踏み込んだ記述がないように思われま す。ぜひ、この地域循環圏を構築すべく、早く具体的な検討に入っ ていただきたいのですがいかがでしょうか？	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、第4章及び第5章の関連部分に以下のとおり追加・修正を致します。 【38頁-「ごみの再資源化・エネルギー利用で繰り返し使うまち」】 (新) ●市域を越えた広域でのリサイクルルートを含め、廃棄物の種類や資源化の状況を踏ま えた適切な圏域での資源循環システムが構築されています。(2ポツ目に追加) 【51頁-方向性2の1~2行目】 (旧) 市内で廃棄される有用資源の回収を実施するなど資源循環の仕組みづくりを進めます。 ↓ (新) 「地域循環圏」の視点を踏まえ、市内で廃棄される有用資源の回収を実施するだけでな く、市域を越えた広域でのリサイクルルートを含め、廃棄物の種類や資源化の状況を踏 まえた適切な圏域での資源循環の仕組みづくりを進めます。
3	第2章 将来に向けた社 会的要請	【13頁】超高齢化に対応した、インフラ・サービス・社会システムの整 備 「新成長戦略」から、「バリアフリー化された賃貸住宅の供給促進」 等の内容を引用されているようです。大変有効な提案だと思いたすの で、可能ならば、ビジョンの具体的な記述を期待したいです。	原案どおり	ご意見のとおり、超高齢化に対応した住宅サービスは重要であると認識しております が、本ビジョンにおいては、本市の環境都市づくりの方向性を考察するにあたっての、本 市に求められる社会的要請の一つとして整理しております。
4	第2章 将来に向けた社 会的要請	【13頁】地域社会における行政・住民・企業等の緩やかな連携 本文中に「NPO・ボランティア団体」が明記されていますので、タイト ルへの明記が望ましい。	原案どおり (記載済み)	ご指摘の部分につきましては、タイトル中の「等」の中に、NPOやボランティア団体を含 んでおります。
5	第2章 将来に向けた社 会的要請	【13頁】国際化に対応した人的資源の育成 国際化に対応した人的資源の育成に関しては明記されていま すが、国際化だけではなく、好ましい福岡市民としての人材資源の育成 が必要と思います。 将来の福岡市を支える市民の人間力としての要素とは何か、その 要素を実現するアプローチを検討する視点が必要。 (参考:平成15年 内閣府 人間力戦略研究会報告書) ※第4章5章6章7章にも関係してきます。行政が考え提供する施策 も、その施策を理解し、正しく利活用する市民の意識が必要不可欠だ と思います。	原案どおり (記載済み)	環境分野においても市民の環境教育や環境都市づくりに向けた人材育成は重要であ ると認識しており、第2章で、国際化に対応した人的資源の育成に関して記載している (13-14頁)ほか、第3章では、大学・研究機関が多いが若い人材の多くが地元以外に就職 しているという本市の強み・弱みについて分析しております(24-25頁)。 そして、これらを踏まえ、第4章で人づくり分野における将来像を、第5章でその実現に に向けた取り組みをお示しし、その中で、市民・事業者の環境教育や将来の環境都市づく りを担う人材育成等についても言及しております。 ご意見は、今後の市政の参考にさせていただきます。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
6	第2章 将来に向けた社会的要請	【14頁】震災後の地域社会 「津波の被害を受けやすい沿岸部からは粘り強くより安全な国土へ市民を誘導する」という文章がよくわかりません。「津波の被害を受けやすい沿岸からより安全な内陸部へ市民を誘導するのでしょうか。」	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。 【14頁-「震災後の地域社会」の12~13行目】 (旧) 津波の被害を受けやすい沿岸部からは粘り強くより安全な国土へ市民を誘導することも検討されました。 ↓ (新) 津波の被害を受けやすい沿岸部から災害リスクのより低い地域へ、市民を粘り強く誘導していくことも検討されました。
7	第2章 将来に向けた社会的要請	【15頁】アジア経済との関係強化に向けて 福岡市はアジアの玄関口となる為には、アジアの模範となる生活圏を作成すべきと考えます。 博多港、アイランドシティ(人工島)が自然再生エネルギー開発の場として、現在進行していることは非常に望ましいと存じます。	原案どおり	—
8	第2章 将来に向けた社会的要請	【15-16頁】アジア経済との関係強化に向けて 北部九州の2大都市の北九州市との経済連携に付いての検討が望まれます。両市は それぞれの特色があり、経済連携を前提とすることにより経済成長の可能性は高まると考えます。	原案どおり	—
9	第3章 福岡市の強み・弱み	【17-18頁】都市構造・都市交通 公共交通の利便性を高める事により低炭素化も促進できる。バス会社はどんどん不便な所を切り捨てて行っているが、買い物難民を作らない対策が必要。	原案どおり (記載済み)	第3章3-2において都市交通に関する強み・弱みを整理した上で、第4章4-1の着眼点1や4-3の分野別将来像(方向性4)、さらに第5章の重点分野において、公共交通の充実や低炭素型の交通手段への転換について記載しております。
10	第3章 福岡市の強み・弱み	【18頁】住宅・建築物 「風の通り道」を市街地だけでなく、住宅地についても考える。今マンション建設は、企業の企画で、企業の都合で建設されている。その為戸建は風の影響を受け色々な迷惑をこうむっている。マンション建設等は、地域住民と企業が話し合って町づくりをすすめるべき。無秩序無計画なマンションの濫立をやめるべき。これがヒートアイランド対策にもつながる。	原案どおり (記載済み)	ヒートアイランド現象は都心部において顕在化しております。よって、本ビジョンにおいては、こうした都心部のヒートアイランド現象の緩和策として、第4章の着眼点4において、都心部の緑化や博多湾からの風の活用について言及しております。(31頁)
11	第3章 福岡市の強み・弱み	【20頁】自然環境 「福岡市には豊かな自然環境があり、それが強みといえます。福岡市は政令指定都市の中で第3位の長さの海岸線を有し~豊かな海の恵みを背景に、活気ある漁港となっています。」  文頭にいきなりで唐突感があるので、後段の具体的内容を受けて「これらの豊かな自然環境があり、それが強みといえます。」とした方がいいのではないのでしょうか。	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。 【20頁-「自然環境」の1段落目】 (旧) 福岡市には豊かな自然環境があり、それが強みといえます。福岡市は政令指定都市の中で第3位の長さの海岸線を有し、自然海岸も多く残されています。博多湾は豊かな生物相を有しており、希少生物であるカブトガニの生息や、クロツラヘラサギの飛来も見られます。さらに、湾内に位置する博多漁港は全国有数の取扱高を誇っており、豊かな海の恵みを背景に、活気ある漁港となっています。 ↓ (新) 福岡市は政令指定都市の中で第3位の長さの海岸線を有し、自然海岸も多く残されています。博多湾は豊かな生物相を有しており、希少生物であるカブトガニの生息や、クロツラヘラサギの飛来も見られます。さらに、湾内に位置する博多漁港は全国有数の取扱高を誇っており、豊かな海の恵みを背景に、活気ある漁港となっています。福岡市にはこれらの豊かな自然環境があり、それが強みといえます。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
12	第3章 福岡市の強み・弱み	<p>【20頁】自然環境            九大六本松跡地は本来、大学が存在していた事もあり、文化都市として永続させるべきという点で、南側に裁判所関係、北側に少年文化科学会館を導入する事は個人的に賛同致します。            更にこれからの世界情勢として、少年科学文化会館で環境学習するに当たり、循環型社会作りを実践して日本全体から世界に発信させてはいかがでしょうか？            小規模ながら、北側の少年科学文化会館の傍に畑を設け、そこで作物を地域住民と作り、収穫後、北側の少年科学文化会館内や商業施設内の食堂、もしくは裁判所の食堂で料理に利用し、調理くずや食べかすは、同敷地内で堆肥化(コンポスト)し、または畑に戻すという方法です。その流れを少年科学文化会館で学習すれば、より一層充実した循環社会作りが出来るでしょう。また、堆肥化は場合によっては、六本松周辺住民の生ゴミを持ち寄るのも良いと考えます。</p>	<p>原案どおり            (個別施策での検討)</p>	<p>本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、資源循環分野についての将来像につきましては第4章(38-39頁)、その実現に向けた取組の方向性については第5章(51頁)でお示ししております。            また、具体的な事業の内容につきましては、個別の施策・事業の中で検討させていただきます。</p>
13	第3章 福岡市の強み・弱み	<p>【22頁】都市の安全・安心            ヒートアイランド現象は、空調や自動車の使用に伴うエネルギー消費や発熱量の増加によるものですが、それを抑制させる森林や草地を減少させ、高層ビルを建てた事によるものと忘れてはならないと思います。</p>	<p>原案どおり</p>	<p>—</p>
14	第3章 福岡市の強み・弱み	<p>【24-25頁】人的資源            31頁の下方で、「市内には多数の大学等の教育機関を・・・と人材育成の可能性を指摘しているものの、24～25頁で「多くの理系大学・短期大学及び情報に関する学科を開設する専修学校」があり、結局「理工系、情報系を含む優秀な若い人材」が重要とされています。文理の融合などというものは至難の業であり、実際は文理およびその中での各分野には役割があることを心得ています。            その中でも、環境問題が経済社会にどのような影響を与え、それをどう考えて、どう行動すべきかは、文系の学生でも習得できると思います(大学の授業の単位を取るだけの軽薄な動機も含めて)。むしろ、科学的知識・局所的な視点に縛られない分、思い切った発想が出てくるかもしれません。そして、そのインスピレーションに工学者等が共感すると楽しくなります。したがって、理工系、情報系を「含む」のは当然ですが、それ以外の学生も貢献できるような表現が欲しいです。</p>	<p>意見を踏まえ修正</p>	<p>ご意見を踏まえ、第3章「人的資源」の記述について以下のとおり修正を加えます。            【24頁-25頁「人的資源」】            (旧)            福岡都市圏には多くの理系大学・短期大学及び情報に関する学科を開設する専修学校があり            ↓            (新)            福岡都市圏には多くの大学・短期大学や専修学校があり</p>
15	第3章 福岡市の強み・弱み	<p>【28頁】環境を活かしたビジネス            福岡市の環境ビジネス戦略において、アジアをターゲットに展開する旨のことが記載されていますが、アジア以外の地域では行わないのでしょうか。余談ではありますが、北九州市の環境ビジネスは、水ビジネスなど前面に打ち出し分かりやすいと思います。福岡市も是非、「福岡方式」など得意分野をもっと、前面に打ち出すと良いと思います。</p>	<p>原案どおり</p>	<p>本ビジョンでは、市総合計画のもと、本市の「住み良いまちづくり」を広くアジアに紹介し、アジアにおける都市問題解決に寄与することで、国際貢献・国際協力を積極的に推進することとしております。この取組みにより、アジアにおける知名度やステイタスを向上させアジアでの存在感を高めるとともに、ビジネスも含めた事業展開をめざします。            ご意見は、今後の市政の参考にさせていただきます。</p>
16	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【29頁】            「前章までの分析を踏まえ」            第2章、第3章は現状把握が中心ですので、5つの着眼点の前に「○○○○のように分析されるので、」のような、もう少し丁寧な説明が必要ではないでしょうか。</p>	<p>原案どおり            (記載済み)</p>	<p>第2章や第3章では、現状把握に加え、その現状に対する分析や評価についても記載しており、第4章4-1において、それらを踏まえ将来像を設定するにあたっての着眼点を整理しております。</p>

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
17	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【29頁】着眼点1 「福岡市のような大都市ではメガソーラーの設置が可能な土地の確保が難しい等様々な理由から、大規模な導入は見込めません。ゆえに、福岡市において力を入れて実施すべきは、住宅など需要者側に太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの導入を促進することも含め②の需要側の排出削減を徹底的に進めることです。」</p> <p>2050年においては安全性を持って福岡市内で相当量の(電気)エネルギー生産を可能とする技術が確立されている可能性があります。そのようなことには積極的に関わるというような表現もあるのではないのでしょうか。たとえば、このようなことを言うと反対派の人には怒られるかもしれませんが、固有の安全性を持つ小型原子炉発電(10万KW程度)の概念はプラントメーカーでは既に確立されています。2050年においては、エネルギーは地産地消の時代に入っている可能性があります。</p> <p>ですから「福岡市は土地がないから仕方ない」と決めつけるのはちょっと無責任と思います。</p>	意見を踏まえ修正	<p>ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。</p> <p>【29頁-「着眼点1」の5～7行目】 (旧) 福岡市のような大都市ではメガソーラーの設置が可能な土地の確保が難しい等様々な理由から、大規模な導入は見込めません。ゆえに、福岡市において力を入れて実施すべきは、 ↓ (新) 福岡市のような大都市ではメガソーラーの設置が可能な土地の確保が難しい等様々な課題があります。ゆえに、福岡市において重点的に実施すべきは、</p>
18	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【30頁】着眼点2 「鴻巣山などの里地里山」 鴻巣山は中央区と南区との間にある丘陵のことだと思われませんが、里地里山といえるのでしょうか。里地と一体となった里山は、早良区や西区の南部のように思われます。 「里地里山」という概念は比較的新しいものと思いますので、用いるのであれば、用語集に加えてはいかがでしょうか。</p>	意見を踏まえ修正	<p>里地里山とは、さまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落を取り巻く二次林と、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域概念であり、本市では、鴻巣山のほか、ご指摘のありました早良区や西区の南部も含まれると考えております。</p> <p>また、ご意見を踏まえ、里地里山については、用語集に以下のとおり説明を加えます。</p> <p>【64頁-用語集】 (新) 里地里山-P8.20.30.33.36.49 さまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落を取り巻く二次林と、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域概念。(追加)</p>
19	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【30頁】着眼点2 「陸域をみると、緑地が少なく生物多様性に乏しい中心市街地に加え、市街住宅地域でも都市化の進展などにより里地里山の環境が減少しており」</p> <p>「中心市街地」「市街住宅地域」「都市化」の言葉は、ここだけに出てくるようですが、それぞれ「都市部」「郊外部or市街化区域」「宅地化」と言葉を統一してはどうでしょうか。</p>	意見を踏まえ修正	<p>ご意見を踏まえ、「中心市街地」「市街住宅地域」「都市化」という言葉を、本ビジョンで用いている同趣旨の表現に改めます。具体的には、該当部分を以下のとおり修正します。</p> <p>【30頁-「着眼点2」の10～12行目】 (旧) 陸域をみると、緑地が少なく生物多様性に乏しい中心市街地に加え、市街住宅地域でも都市化の進展などにより里地里山の環境が減少しており、生物の生息・生育環境が少なくなっています。 ↓ (新) 陸域をみると、緑地が少なく生物多様性に乏しい都心部に加え、郊外でも宅地化の進展などにより里地里山の環境が減少しており、生物の生息・生育環境が少なくなっています。</p> <p>【49頁-「方向性2」の1行目】 (旧) 中心市街地の自然環境は多くの市民の生活に安らぎと憩いを与えるものであり ↓ (新) 都心部の自然環境は多くの市民の生活に安らぎと憩いを与えるものであり</p>

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
20	第4章 将来像～2050年の福岡市～	【30頁】着眼点2 「市街住宅地域でも都市化の進展などにより里地里山の環境が減少しており」 昨年12月に策定されている「第9次福岡市基本計画」では、「福岡市は、周辺を海や山に囲まれているという地理的条件に加えて、市街地の拡大を抑えつつ、計画的な市街地整備に取り組んできたことから、コンパクトの都市として評価を得ています。」とされています。表現として「市街化区域では、宅地化の進展などにより里地里山の環境が減少しており」が適切ではないでしょうか。	意見を踏まえ修正	該当部分については、上記意見No19のとおり対応します。
21	第4章 将来像～2050年の福岡市～	【34頁】低炭素分野 東日本大震災により、原子力エネルギーは二酸化炭素排出がないクリーンなエネルギーという位置づけが間違いであり、大事が起きれば非常に危険なものであることが明らかになりました。玄海原発を隣県に抱えている限り、このビジョンは非常に脆い快適環境都市を目指すことになってしまうと考えます。環境面からの大きな新しい価値として、原発に依存しない、地域のエネルギー自律を目指すことを明確に示していただきたい。	原案どおり (記載済み)	地域のエネルギー自律につきましては、第5章において将来像実現に向けた取り組みの方向性のなかで、「自律分散型のエネルギーシステムが整備されたまち」と記載しております。
22	第4章 将来像～2050年の福岡市～	【34頁】低炭素分野 「再生可能エネルギーなどが大量に導入され、活用されたまち」 “大量”は許容を超えているイメージがありますので、定性的な表現となるのであれば、“十分に”の方が適切ではないでしょうか。	原案どおり	再生可能エネルギーの積極導入を図ることを目指して「大量」としております。なお、具体的な数値目標は、平成25年度策定予定の「福岡市環境・エネルギー戦略(仮称)」の中で定めることとしております。
23	第4章 将来像～2050年の福岡市～	【34-35頁】低炭素分野 (方向性)の中に「5.他地域へのエネルギー依存の少ない街」を入れてはどうか。地産地消と書いているのですから。それに対応する対策としては「安全な先端エネルギーシステムの導入への積極的取組」ではないでしょうか。2050年には九州全体の人口が減少しているだけでなく、人口のほとんどは県庁所在地を中心とするいくつかの都市圏に集中していることが容易に予想されます。特に福岡都市圏への集中が著しいと思います。そのような状態では、現在の様な人口が少ない遠隔地に大規模電力ステーションを設置して大消費地である都市部に長距離送電するというモデルより、それぞれの消費地(都市圏)近郊に中規模電力ステーションを設置して供給するモデルの方が経済的、合理的である可能性が高いと思います。中規模システムとしては高効率ガス火力、CCSを伴う高効率石炭火力、場合によっては安全性と経済性が高められた小型モジュラー型原子炉などが考えられます。私は、2050年以降には、少なくとも世界的には、分散型の小型モジュラー型原子炉が幅を利かせていると想像しています。ほとんどの市民は、昔、東区名島に石炭火力発電所があり福岡市の電力を賄っていたことを知らないでしょう。このような視点も必要ではないでしょうか。	原案どおり (記載済み)	方向性1「再生可能エネルギーなどが大量に導入され、活用されたまち」、方向性2「省エネルギー型のまち」、方向性3「自律分散型のエネルギーシステムが整備されたまち」という表現に、他地域へのエネルギー依存が少ないことも含まれていると考えております。
24	第4章 将来像～2050年の福岡市～	【36頁】生物多様性分野 「多様な生き物や自然、文化が守られた海辺環境」 海も川もつながっていますし、福岡に数多くあり特徴的な「ため池」も含めて、住民の保全活動や環境教育活動の場でもあるので、“海辺環境”は“水辺環境”としてまとめた方がいいのではないのでしょうか。後段にあるように里地里山・森林と河川を括るよりも適切だと思えます。	原案どおり	ご指摘のとおり、海と川はつながっており、ため池も含め、密接な関係にある本市の重要な水辺環境であると認識しております。しかし、本ビジョンでは、「海域」と「陸域」の視点から、それぞれの将来像を示しています。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
25	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【36-37頁】生物多様性分野            九大六本松跡地の建物周辺には樹木を移植する計画がありますが、以前、九大教養部が存在していた時に生息していた種類数は出来るだけ確保して頂きたいのです。特に実のなる樹木(スモモ・カキ・クワ・クルミ・イチヨウ等)を再度植樹し、植物観察をすると共に、収穫祭をその樹木が実を付けるのに合わせて実施し、食堂で料理に利用したり、持ち帰るようにすれば自然の有難さが理解出来、周辺で木の葉が落ちて自然と葉を片付ける習慣が身に付くのではないのでしょうか？勿論、どの植物がいつ花を咲かせ、いつ実を付け、どれが食用になるのか、またそれらに関わる昆虫や鳥の観察も出来、生物多様性という言葉が生活の中に息づく事は間違いありません。</p>	<p>原案どおり (個別施策での検討)</p>	<p>本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、具体的な事業の内容につきましては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。</p>
26	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【36-37頁】生物多様性分野            脊振(1,055m)ー油山(597m)ー鴻巣山(100m)ー南公園(64m)ー六本松九大跡地ー大濠・舞鶴公園ー西公園(49m)は、福岡市も認めておりますグリーンベルトです。実際、航空写真では負相なものですが、「風の道」が存在しているのは確実です。この「風の道」は、上記の素案にあります博多湾から里地里山を経て脊振に至る自然の傾斜とそこに生息する植物が作り出したものです。            そこで六本松九大跡地に建物を建てる際、配慮願いたいのが、建物の高さです。60m以下の高さに制限するよう配慮頂いているようですが、特に六本松九大跡地の東側は南公園より六本松、更に大濠・舞鶴公園から博多湾に「風の道」を確保する上で、慎重に考えて頂きたいのです。現在のところ、南公園から六本松九大跡地へ下る所には、高い建物が存在しません。            そこで、六本松九大跡地の東側は北側に向うに連れ、徐々に低い建物、特にバス通り側は、0mから高くても、20～30mの高さの制限して頂くよう配慮(参考資料の斜線部分参照ー少し極端に占めさせて頂いております。)し、ビル風が存在しないようお願い致します。私としては、東側の複合施設建設予定地に3階建てくらいの少年科学文化会館と畑を設置させる事が望ましいと考えます。</p>	<p>原案どおり (個別施策での検討)</p>	<p>本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、具体的な事業の内容につきましては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。</p>
27	第4章 将来像～2050年の福岡市～	<p>【38頁】資源循環分野            “ものを大切に”精神・文化が次世代に受け継がれたまち            「夜間戸別収集システム、また“ものを大切に”精神が根づいてポイ捨てなどもなくなり、“ごみのみえないまち”を実現しています。」            2050年においても「夜間個別収集システム」を維持されるおつもりでしょうか。現時点の福岡市ではこのシステムは最適解だと思いますが、社会環境、雇用環境、技術環境等の変化を考えると、2050年にはもっと別の最適解が出てきていると思います。ですから表現を変えたらどうでしょうか。</p>	<p>意見を踏まえ修正</p>	<p>ご意見を踏まえ、以下のとおり追加・修正を致します。</p> <p>【38頁ー「ものを大切に”精神・文化が次世代に受け継がれたまち」(旧)            夜間戸別収集システム、また“ものを大切に”精神が根づいてポイ捨てなどもなくなり、“ごみのみえないまち”を実現しています。            ↓            (新)            適正なごみだしルールが守られ、ごみのポイ捨てなどがなくなり、“ごみのみえないまち”を実現しています。</p> <p>【39頁ー新しい価値】            「ごみのない街並みが形成されることにより、市民の快適性が向上するとともに、国内外からも高い評価を得て都市ブランドが向上」            (位置の移動)「将来像2」の下から「将来像1」の下へ</p>

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
28	第4章 将来像～2050年 の福岡市～	<p>【38頁】資源循環分野 中ほどに、「ごみは少ない分別で収集し、…」と、「バイオマスやレアメタルなど、…」という、半ば相矛盾する項目が並んでいます。生ごみや小型電子機器など特定のモノだけ出してください、となると個人の理解とある程度の努力が必要で、現在それはほとんど期待できません。 私は、これらの分別排出の重要性はわかっていつつも、どうしたらこういう回収システムを150万人の(国際)都市で可能か、なかなか思いつきません。回収ボックスを置くだけでは意味がないです。冒頭の2つの項目はそれぞれ、市民に求める努力がまったく違うのだということを、どこかで記すべきだと思います。</p>	意見を踏まえ修正	<p>ご意見を踏まえ、38頁「ごみの再資源化・エネルギー利用で繰り返し使うまち」の記述を以下のとおり修正します。</p> <p>(旧) ●ごみは少ない分別で収集し、その後施設で選別・再資源化を行うなど、分別の煩雑さを伴わない資源循環システムとして定評がある都市となっています。 ●バイオマスやレアメタルなど、都市内に散在する有用資源を回収し、リサイクルするための循環システムが整備されています。</p> <p>↓</p> <p>(新) ●資源循環に対する市民の意識が高まっており、バイオマスやレアメタルなど、都市内に散在する有用資源を回収し、リサイクルするためのシステムが整備され、資源循環のまちとして定評がある都市となっています。(1ポツ目を削除)</p>
29	第4章 将来像～2050年 の福岡市～	<p>【41頁】環境保全・気候変動適応分野 最近テレビ等で中国の大気汚染が連日ニュースになっています。特にPM2.5について、今後の中国の経済発展を考慮すると、長期間に渡って福岡市民の被害が甚大になるおそれがあります。市民は、現在この問題に非常に高い関心を寄せていますので、「PM2.5」について具体的に示していただきたい。</p>	意見を踏まえ修正	<p>環境保全・気候変動適応分野においては、黄砂だけでなく、微小粒子状物質(PM2.5)を含む大気汚染物質対策も含めた取組みを進めてまいります。本ビジョンの記述につきましては、方向性2において黄砂・大気汚染物質対策に取り組むということがわかるよう表現を見直し、重点分野①において微小粒子状物質(PM2.5)を明記します。 具体的には、以下のとおり追加・修正を致します。</p> <p>【41頁-「新しい価値」】 (旧) 黄砂・大気汚染物質の削減による都市の快適性の向上と、市民の健康の維持 ↓ (新) 黄砂・大気汚染物質の影響の軽減による都市の快適性の向上と、市民の健康の維持</p> <p>【52頁-「方向性2」の2～5行目】 (旧) 近年では黄砂による健康影響やヒートアイランド現象の顕在化も生じています。こうした都市の快適環境に関わる課題を解決するため、発生源対策や警報システムの整備などによる大気汚染物質・黄砂対策、市街地におけるヒートアイランド現象の抑制などの総合的な対策を推進します。 ↓ (新) 近年では黄砂や大気汚染物質による健康影響やヒートアイランド現象の顕在化も生じています。こうした都市の快適環境に関わる課題を解決するため、発生源対策や警報システムの整備などによる黄砂・大気汚染物質対策、市街地におけるヒートアイランド現象の抑制などの総合的な対策を推進します。</p> <p>【52頁-重点分野①】 (旧)黄砂影響対策の推進 黄砂飛来時の被害を未然に防止するため、福岡市独自の黄砂情報提供システムを構築するなどの対策を推進します。 ↓ (新)黄砂・微小粒子状物質(PM2.5)対策の推進 黄砂や微小粒子状物質(PM2.5)の被害を未然に防ぐため、情報提供システムを構築し、飛来の予測や行動のめやすなどの情報を多様な媒体で市民にわかりやすく提供します。</p> <p>【58頁-ロードマップ】 (旧)黄砂影響対策の推進 ↓ (新)黄砂・微小粒子状物質(PM2.5)対策の推進</p>



(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
30	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【44頁】 第5章はお役所の取り組みなのでしょうけれど、表現がお役所目線だと思います。	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。  【44頁－冒頭の3行目】 (旧) それぞれ関係局等において連携を図りながら具体化・実現に向けた検討を進めます。 ↓ (新) 行政・市民・企業等が連携を図りながら具体化・実現に向けた検討を進めます。
31	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【44頁】低炭素分野 方向性1 多くの人が拒否感を持つ「ガス火力」や「石炭火力」といったエネルギー源の検討を排除しないような表現を望みます。それが行政の責任だと思います。直接それらの名称を出さなくとも、排除しないような表現が可能だと思います。風レンズは幻想で、水素ですべては解決しません。	原案どおり	再生可能エネルギー等の積極的導入など、低炭素分野の将来像や取組の方向性においては、いわゆる化石燃料由来のエネルギーを排除するものではないと考えます。ご意見は今後の市政の参考にさせていただきます。
32	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【44頁】低炭素分野 温暖化対策とエネルギー施策についてお聞きしたいのですが、原子力発電が厳しい社会状況となっています。福岡市では、メガソーラーや水素エネルギー、燃料電池などを活用して、2050年までに火力発電以外でどの程度(%)をカバーする計画でしょうか。具体的な目標数は示しにくいと思いますが、分かれば表記して、市民の協力を得やすくしてはいかがでしょうか。	原案どおり	平成25年度策定予定の「福岡市環境・エネルギー戦略(仮称)」において、再生可能エネルギー等の導入目標値を示すこととしております。
33	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【45頁】低炭素分野 方向性2 51頁の資源循環分野では、「ものを大切にする精神をもった市民や地域文化の醸成」とあり、重要なことだと思いますが、省エネのところでは、そのような精神面の記述がないようです。エネルギーも「もの」と同じ考え方が必要ではないでしょうか。エネルギーマネジメントシステムに頼っただけで、良いのでしょうか。下記のような文章の追加も考えられます。  (11行目(～ビジネススタイルの転換を促します。))へ追加  「また、市民・事業者には、省エネの啓発を進め、“エネルギーを大切に”する精神を持った市民への意識改革を促し、自発的に・自主的に省エネに取り組む、エネルギー使用の無駄の少ない、省エネ型社会のライフスタイルをめざします。」	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。  【45頁－「方向性2」の2行目】 (旧) そのため、今後地域単位での低炭素化を促進します。 ↓ (新) そのため、引き続き、市民・事業者に対する省エネの啓発を進め、意識改革を促すとともに、今後、建物や施設への最先端技術の導入などを促進します。
34	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【45頁】低炭素分野 方向性2－重点分野④ 「森林吸収によるカーボンオフセット」の意味がよく分かりません。適切な表現に見直された方がよいと思います。まず、何の分を(削減できなかった分)、だれがオフセットしようとしているのか。事業所の排出量のことなのか。それとも、削減目標の未達成分なのか。 カーボン・オフセットを行うためには、クレジットの購入か、削減・吸収プロジェクトの参加でオフセットが出来ます。「森林吸収」とは、森林整備活動(間伐や植林)へ直接参加などですが、事業所がそのようなことをするとは思えません。クレジットの購入と思いますが、森林整備活動によるクレジットとは限りません。	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。  【45頁－「重点分野④」の3～5行目】 (旧) 地球温暖化対策計画書制度の導入や、省エネ基準の導入といった規制的手法について検討します。また、森林吸収によるカーボンオフセットや、市域内・国内排出量クレジットの活用といった取組みについても検討します。 ↓ (新) 地球温暖化対策計画書制度の導入や、事業者が排出量取引等によるカーボンオフセットに取り組む仕組みづくり等についても検討します。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
35	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【46頁】低炭素分野 方向性3-重点分野③ アイランドシティは人の住まない街にしたほうが良いと思います。(ので、実験施設としての位置付けを)	原案どおり	アイランドシティでは、既に約5,000人の方が暮らしております。また、環境共生のまちづくりや、情報通信ネットワークの導入の取り組みも進められており、エネルギーを「創る、ためる、賢く使う」ことができるスマートコミュニティの形成をアイランドシティにおいて、モデル的に行ってまいりたいと考えております
36	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【47頁】低炭素分野 方向性4-重点分野⑥ 「カーボンゼロ交通」とありますが、FCVやEVバスは、走行中はCO2ゼロですが、水素や電気を作る過程で、CO2を発生させると思われます。再生可能エネルギーにより、水素や電気を作るということであれば、その旨、コメントが必要でしょう。 または、「カーボンゼロ交通」を使わず、低炭素型交通網の表現だったら、良いと思います。	意見を踏まえ修正	「カーボンゼロ交通」とは、走行中の温室効果ガスの排出量がゼロであるという意味であり、燃料の製造過程における温室効果ガスの排出量をゼロとするものではありませんが、ご意見を踏まえ該当箇所を以下のとおり修正します。  【47頁-重点分野⑥】 (旧) 重点分野⑥;FCV(燃料電池車)・EVバス等のカーボンゼロ交通の導入支援の検討 地下鉄などの公共交通の充実に加えて、FCV(燃料電池車)・EVバス等の低炭素型交通手段への転換を段階的に実施します。 ↓ (新) 重点分野⑥;FCV(燃料電池車)・EV(電気自動車)等の導入支援の検討 地下鉄などの公共交通の充実に加えて、FCV(燃料電池車)・EV(電気自動車)等の低炭素型交通手段への転換を段階的に実施します。  【55頁-ロードマップ】 (旧)FCV(燃料電池車)・EVバス等のカーボンゼロ交通の導入支援の検討 ↓ (新)FCV(燃料電池車)・EV(電気自動車)等の導入支援の検討
37	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【47頁】低炭素分野 方向性4-重点分野⑥ 文章が、FCV(燃料電池車)になっているのに、イラストの乗用車はEVでは、対応が取れないのではないか。イラストの乗用車も、FCVに直したほうがよいのではないのでしょうか。バスの方に、EVを入れたらどうでしょうか。	意見を踏まえ修正	ご意見や上記意見36への対応に合わせ、イラストを修正します。
38	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【47頁】低炭素分野 方向性4-重点分野⑥ バスそのものをデマンドバス化できる、又、したほうが良い所は導入する。	原案どおり (個別施策での検討)	方向性4の重点分野⑥は、環境都市づくりの中での取組の方向性を示したものです。ご指摘のデマンドバスの導入などについては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。
39	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【49頁】生物多様性分野 方向性2 「現在、市街地や都心でのみどりは非常に少ない状況であり、また身近な自然とのふれあいについても市民満足度が低いことから、特に、都心の緑化を推進していきます。」  (変更案) 現在、市街地や都心でのみどりは都市公園等に限られています が、非常に少ない状況であり身近なみどりが必要です。また自然とのふれあいについても市民満足度が低いことから、特に、都心の緑化を促進していきます。	原案どおり	みどりには、都市公園のほか、街路樹・樹林地・民有地の緑等のみどりも含まれますので、原案どおりとします。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
40	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【49頁】生物多様性分野 方向性2-重点分野④ 「緑化地域制度の導入検討を進めます。」  本文中の「検討」は、はずしてよいのではないのでしょうか。	原案どおり	緑化地域制度は、一定以上の建築物の新築や増築を行う場合に、敷地面積の一定割合以上の緑化を義務付ける制度であり、導入においては、個人や事業者に新たな負担をお願いする形となるため、今後、議会・市民・事業者のご意見も伺いながら検討を進める必要があると認識していることから、原案どおり「検討」という表現を残します。 ただし、表現を以下のとおり改めます。 【49頁-重点分野④】 (旧)緑化地域制度の導入検討を進めます ↓ (新)緑化地域制度の導入を検討します
41	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【49頁】生物多様性分野 方向性2 市街地や都心のみどりは都市公園、都市緑地、緑地保全地区、街路樹、寺社仏閣等に限られますが、都心における身近なみどりは必要と考えます。また緑化地域制度の導入も有効だと考えられます。	原案どおり (記載済み)	方向性2に記載のとおり、生き物とみどりがあふれるまちなかの実現に向けた取組を推進してまいります。ご意見は今後の市政の参考にさせていただきます。
42	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【49頁】生物多様性分野 方向性2 マンション建設の場合、開発許可を取る時に公園を作られる事が多いが、そのほとんどが小さな公園となる。 ところが、公園は広さによって用途が決定されており、地域には、幼児公園のみがつけられる事になる。広さで用途を決めるのは、ナンセンスだ。都市緑地増が必要。	原案どおり (個別施策での検討)	本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、具体的な事業の内容につきましては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。
43	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【52頁】環境保全・気候変動適応分野 方向性2-重点分野① 黄砂に加え、PM2.5	意見を踏まえ修正	該当部分については、上記意見No29のとおり対応します。
44	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【53頁】人づくり分野 方向性1 「環境を守る人づくりで、社会・経済が発展するまち」は、非常に重要な方向性だと思います。 下の2行の「身近な環境への取り組み」のところが、物足りないです。例えば、下記のようなことではいかがでしょうか。  (修正案) また、市民・事業者の身近な取り組みを広げるため、高齢者や主婦、若者などの有効な活用をはかり、省エネ～3R～自然保護などの活動ができるように、トータル的に環境教育・環境活動の支援を積極的に進めます。	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。  【53頁-「方向性1」の5行目】 (旧) また、市民・事業者の身近な環境への取り組みを広げるため、環境教育・活動の支援を積極的に進めます。 ↓ (新) また、市民・事業者の身近な環境への取り組みを広げるため、様々な世代に対しあらゆる機会を捉え、環境教育・活動の支援を積極的に進めます。
45	第5章 将来像実現に向けた取組みの方向性と重点分野	【53頁】人づくり分野 方向性3-重点分野① パッケージの意味を分かりやすく説明してください。また、地域の活性化は、様々なものを地域に呼び込むことにあると考えます。この事業の目的である海外展開によって、福岡市民にどのような利益がもたらされるのでしょうか、海外展開をする意義・目的を教えてください。	原案どおり	「パッケージ化」とは、ごみや水循環に係る設備や技術だけでなく、そのノウハウなどもあわせて海外に移転できるようにすることです。 また、海外展開につきましては、“市が保有する先進的技術の普及による地球環境の改善”のほか、“福岡市の知名度向上と信頼感の醸成”や、“人流の増加とそれによる市経済への好影響”といった意義、目的のもと実施しております。

(別添) 「福岡市新世代環境都市ビジョン(仮称)」の市民意見募集の結果について (11人+2団体/55件)

意見No.	意見対象項目	ご意見の概要	ご意見への対応	意見に対する考え方
46	第6章 2050年の将来像実現に向けた、ロードマップ	【58頁】環境保全・気候変動適応分野 九州大学に、中国からの飛来物の研究施設の設立(産業連携)	意見を踏まえ修正	ご意見を踏まえ、該当箇所を以下のとおり修正します。 【58頁ーロードマップ】 (新)大学等の研究機関と連携した調査研究の実施 (追加)
47	その他	【1頁】新しい価値 この環境都市ビジョンでもたらされる「新しい価値」とは何でしょうか。福岡市の成長とどのようにつながるのかが分かりやすく説明してください。	原案どおり	ここでの「新しい価値」は、本ビジョンで描く将来像の実現に向け、第5章で記載している様々な取り組みを行うことによって、環境面の価値だけでなく、経済発展や地域社会の活性化なども含めた、人々の生活の質の向上をもたらすことを指します。
48	その他	【2頁】「ビジョンの位置づけ」 「…従来の環境分野に比べ、安全・安心、ビジネス、交通、教育等の社会・経済の要素もより幅広く取り込む形で…」とあります。「安全・安心」に含まれるのかもしれませんが、国家的視点から見ると「エネルギー・セキュリティ」という言葉も入れるべきではないでしょうか。下の図にも。	原案どおり	本ビジョンは「福岡市」という自治体の視点で将来展望を描いております。また、2頁の「ビジョンの位置づけ」において、「エネルギーセキュリティ」については、ご意見中にありますように、「安全・安心」に含まれると考えております。エネルギーの安全・安心に関しては、14頁「震災後の地域社会」において言及しているほか、第5章において、今後取り組む方向性3「自律分散型のエネルギーシステムが整備されたまち」(46頁)として記載しております。
49	その他	【61頁】「福岡市＝環境都市」としてのブランド構築 「福岡市＝環境都市」はその立地上、無理ではないでしょうか(ブランド化は)	原案どおり	本ビジョンの第4章(33頁)でもお示しているとおり、地域の特性を踏まえ、誰もが「住みやすい・住み続けたい」と思う快適環境のまちとして、国内外に発信できるようなブランド化を目指すものです。
50	その他	過去と現状から2050年を想定すると課題は山積しているそうである？しかし、人口減？高齢化率は本当に問題点であるのか？医療技術の進歩、健康指向、元気で長寿は人間の本能である。 分野毎の課題について、問題点をピックアップし、解決策をW.Gを設けるなどし、ローリングを行いながら時間を決めて、具現化して行く必要がある。場合によっては発想の転換を行いながら極力市民、多くの人の共通の問題として、何らかの手法で参画してもらおうなど市民の意識の高揚にも力を入れて欲しい。	原案どおり (個別施策での検討)	本ビジョンにおいては、人口や高齢化率といった本市を取り巻く将来予測について、既存地検や研究結果を基に、2050年の社会の姿を想定し、本市の強み・弱みの分析などもあわせ、本市の環境都市づくりの方向性を考察しております。また、第7章7-2(60頁)でもお示しておりますとおり、本ビジョンで示した将来像実現のためには、行政・市民・企業・大学等それぞれの主体が連携しつつ、環境都市づくりに向けた取り組みを進める必要があると認識しております。本市としましては、行政の取り組みとして環境都市づくりを進めていくだけでなく、市民や企業などの各主体が環境都市づくりに積極的に参画し、環境に関する身近な取り組みを実践してもらえよう支援してまいります。
51	その他	老朽化したダムの点検・再整備を明記していただきました。	原案どおり (個別施策での検討)	本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、具体的な事業の内容につきましては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。
52	その他	「国際リニアコライダー」誘致活動は展開しない。やるとしたら、東北復興(地上は使えなくとも、地下であれば)の為、誘致支援を行う。	原案どおり (個別施策での検討)	本ビジョンは、本市の環境都市づくりの方向性を示すものであり、国際リニアコライダーの誘致などの具体的な内容につきましては、各個別の施策・事業の中で検討させていただきます。
53	その他	ディズニーランドを福岡に誘致して欲しい	原案どおり	ご意見につきましては、本ビジョンでは検討の対象としておりません。
54	その他	今後、様々な環境施策を行うにあたって、この環境都市ビジョンがどのような役割を果たすのかが分かりやすく説明してください。 また、福岡市の将来の夢を語るのは素晴らしいことですが、このビジョンの目的を達成するための予算規模(市民の税金負担)はどのようになるのでしょうか？また、進行管理はどのように行っていくのでしょうか？	原案どおり	本ビジョンは、市総合計画のもと、本市の環境都市づくりの方向性を示し、環境基本計画や各部門別計画等の策定時においても整合を図るべき指針となるものです。個別の施策や予算等については、本ビジョンや市・総合計画を踏まえた環境基本計画や各部門別計画等に基づき、具体化・実現を図っていきます。また、進行管理につきましても、今後、環境基本計画や各部門別計画等を推進する中で行っていきます。
55	その他	個人的には2050年は少し遠すぎますが、全体は良く書き込まれていると思いました。	原案どおり	—